

# タウンウォッチング施設概要

## 1. 市立伊勢総合病院

昭和 20 年に既設病院を買収し、宇治山田健康保険組合直営「健民館」と称し開設されました。その後、昭和 32 年に伊勢市河崎 1 丁目で「伊勢市民病院」として診療が開始されました。当時は内科・外科等 8 科で 158 ベット数の病院でしたが、昭和 54 年に現在の楠部町にベット数 419 の新病院が開設されました。その後、検診センターや療養型病棟を開設し、現在では、診療科目も内科・外科はもとより、麻酔科、放射線科等 16 科を備える総合病院となっています。敷地面積 29,754 平方メートル、建物面積 8,378 平方メートルで地下 1 階、地上 5 階の総合病院となっています。

公的医療機関として市内の慶応病院、御園村の山田赤十字病院とともに第 2 次救急病院としての機能も備えています（輪番制で当番日を設定しています）。なお、参考までに平成 13 年度の延べ入院患者数は 139,577 人、延べ外来患者数 289,625 人、健診者 10,412 人となっており、単年度収益は 1 億 3,500 万余りです。（当年度末未処理欠損金 15 億 4,600 万余り有）

## 2. 生涯学習センター「いせトピア」

伊勢市生涯学習センター「伊勢トピア」は、平成 9 年 4 月に開設され、毎週月曜日と年末年始の休館日を除き、午前 9 時から午後 10 時まで開館し、「学び、集い交流し、楽しむ、生涯学習」の推進のため、各種講座、イベントを開催し、市民の生涯学習へのきっかけづくりに努めています。

愛称「いせトピア」は、伊勢とユートピアを合わせた造語で、一般公募により決定されました。老若男女が住みよい理想郷（ユートピア）をうまく表現し、響きの明るさ、新鮮さから選ばれたそうです。

施設は、多目的ホールを始め、工芸室・絵画室・文化交流室等 22 の部屋を設けており、平成 13 年度は 61 の講座に延べ 20,975 人の方に受講いただきました。その他伊勢市民大学・ミュージアムフェスタ&こどもまつり・新春まつり・生涯学習フェスティバル等様々な催しを行っており、生涯学習の拠点となっています。

## 3. 重度身体障害者ディサービスセンターくじら・心身障害児通園施設おおぞら児童園

ディサービスセンターくじらは、在宅の障害者の中でも特に障害が重く、授産所や作業所を利用することが困難で、外出の機会が得にくい肢体不自由児者の方が、様々な活動や人とのふれあいを通じて、楽しく生き生きとした生活を体験できる場で、その援助を目的に平成 13 年 4 月に開設されました。

スポーツレクリエーション・創作的活動・パソコン教室・音楽療法などの活動のほか、介護・給食・送迎・入浴のサービスを実施しています。また、お花見・夏祭り・クリスマス会など季節ごとの年間行事も活発に行われています。

併設のおおぞら児童園は、心や身体面で遅れや心配のあるお子さん（満 1 歳～就学前）を遊びや訓練を通じて手助けし、保護者とともに学びあう場です。朝 9 時の登園から午後 3 時まで、機能回復訓練や個別指導等を行っています。

## 4．伊勢市消防本部

常備消防は、昭和 24 年 4 月「宇治山田市消防本部」として発足しています。昭和 30 年には「伊勢市消防本部」となり、昭和 50 年に近隣の 4 町 1 村（二見町・小俣町・玉城町・度会町・御園村）から消防事務を受託し、広域消防体制となり現在に至っています。

現在、災害に強いまちづくりを目指し、消防体制に万全を期すよう諸施策を展開しています。消防本部は、3 つの課（総務・消防・予防）が置かれ、消防署は 1 署（本部）、2 分署（西分署 常磐 1 丁目・小俣分署 元町）、4 出張所（北出張署 船江 2 丁目・二見出張署 二見町江・玉城出張署 玉城町佐田・度会出張署 度会町棚橋）の体制で、職員 171 人が管内 16 万余りの住民の命と暮らしを守るため、消防防災業務に取り組んでいます。主な消防機械の状況は、はしご車・化学車・救助工作車が各 1 台、ポンプ車 10 台、救急車 8 台などとなっています。

13 年度の火災件数は 72 件で、原因の第 1 位はタバコ、以下コンロ、放火、焚き火の順となっています。救急出動は、4,651 件で、1 日 12.7 件、約 1 時間 53 分に 1 件の割合で救急隊が出場したことになります。

## 5．伊勢市役所（各役場含め）

伊勢市を含めた 4 市町村の姿を簡単に紹介します。資料から平成 12 年国勢調査時の各市町村の人口は、伊勢市 100,145 人（平成 14 年 9 月末現在 101,054 人）、二見町 8,978 人、小俣町 18,125 人、御園村 8,925 人で 4 市町村では 136,173 人となります。

65 歳以上の高齢者は平成 12 年では伊勢市 21,411 人、二見町 1,698 人、小俣町 2,970 人、御園村 1,502 人で、4 市町村で 27,581 人です。高齢化率 20%となっています。今後も少子高齢化は進み、このままのペースですと平成 27 年には 4 市町村の高齢化率は 25%と高い予想がなされています。

4 市町村の総面積は 208.52 平方キロメートルで可住地面積 96.94 平方キロメートルです。

財政的な面では、平成 12 年度決算における歳入・歳出の住民一人あたりの金額、及び住民一人あたりに換算した預金や借金の額、そして職員の数を示しております。

なお、職員数につきましては、伊勢市は大変多いという印象を受けられるかも知れませんが、玉城・二見・小俣・御園・度会から委託を受けています消防の職員、また伊勢病院の看護師などの職員も含んでおります。

## 6．伊勢市駅前（中心市街地の活気のなさ）

ジャスコの郊外移転、伊勢市唯一の百貨店であった三交百貨店の撤退、鉄道による市街地の分断等伊勢市駅周辺を中心市街地としての活気のなさが目立ちます。中心市街地の活性化策が叫ばれるなかで、都市マスタープラン地域別構想の実施など、行政だけではなく、外宮にぎわい会議などの市民レベルで活動がなされています。

伊勢市都市マスタープラン 地域別構想「明倫・有緝・厚生地域」により  
（市街地整備ゾーン）

山田ルネッサンスゾーン

かつての外宮の賑わい、現在も市の中心市街地として機能する山田一帯を、商業、業務、観光など多様な機能を持つ、新たな活力を生み出すゾーンとして活用していく。

## 7. 河崎商人館

元酒卸業の建物の寄贈を受け、伊勢市が敷地を買収し、修復整備を行い、平成 14 年 8 月河崎商人館として開館し、まちづくりの N P O 団体である「伊勢河崎まちづくり衆」が運営管理を行っています。河崎の資料展示や物品販売コーナー、茶道室・華道室、イベント会場を兼ね備えた地域交流施設として「市民主体のまちづくり」の活動拠点となっています。

## 8. 宮川浄化センター（終末処理場予定地）

宮川浄化センターは、伊勢市・明和町・玉城町・二見町・小俣町・御園村の 1 市 4 町 1 村を対象地域とし、環境改善を目的に、地域から発生する汚水を浄化センターに集水し、高度処理を行う施設です。下水道ができますと、生活排水が水路に流れず、トイレが水洗化されるので環境衛生の改善が図れます。第 1 期計画として、伊勢市・二見町・御園村の一部地域を対象に平成 17 年度末供用開始を目標に整備を進めています。なお、計画の概要はパンフレットのとおりで。

## 9. 山田奉行所跡

江戸時代の約 230 年間、この小林地区に「山田奉行所」があり、幕府の出張所として裁判などが行われていました。テレビの時代劇で有名な大岡越前守も、ここで第 18 代目の奉行を務め、その当時の公正な裁きが評価されて、のちに江戸町奉行に抜擢されたということです。

残念ながら、現在、その当時を偲ばせるもの残っていません。奉行所跡の一角にひっそりと石碑が建つのみです。

## 10. 上條の渡し

昔、今のように宮川に架かる橋がなかったころ、この地域でも渡し舟が重要な交通手段としての役割りを担っていました。昭和の初めまで、この上條地区には「上條の渡し」が、もう少し上流の豊浜大橋付近には「磯の渡し」があり、兩岸で生活する住民や伊勢神宮参拝者の貴重な交通手段となっていました。

## 11. 御園中学校（飛び地）

昭和 62 年に現在の御園小学校敷地内から移転。この辺りは、昔、宮川の流れがたびたび変わった影響で、右岸・左岸それぞれに伊勢市・御園村の飛び地（？）があり、この御園中学校は伊勢市磯町に建っています。以来、御園村の中学生は全員「伊勢市にある御園中学に通学」することとなり、5 年に 1 度の国勢調査では、毎回、「村内の学校に通う中学生 0 人」という結果が出ています。合併すればこの奇妙な状況は問題（特に不都合があるわけではないが）なくなり、同時に、両飛び地に住む人たち（御園村側の伊勢市に 7 軒、伊勢市磯町側の御園村に 11 軒）にとっては、これまでの通学や行政上のさまざまな不都合が解消されることにもなります。

## 12. ハートプラザみその

福祉と文化の複合施設で、平成 4 年に完成。保健センターと老人福祉センター、デイサービスセンター、児童館、文化ホールの機能を持つ。保健課が管理。多目的ホールは、最大 400 名の収容が可能です。

### 13. ラブリバー公園

平成2年から、宮川右岸河川敷に約1.6kmにわたる公園を整備。園内には自然の森や花畑、遊具、テニス・ゲートボール・野球・サッカー・バスケットコートなどのスポーツ施設、バーベキューテーブルなどを備え、子どもから大人までが安心して寛げる憩いの広場になっています。

現在、長屋地区の堤防に桜の苗木を植え、桜堤にする事業も進めています。

### 14. 山田赤十字病院

大正14年のこの地に移設されて以来、“日赤”の愛称で親しまれ、地域住民の健康を支え続けてきました。現在、救命救急センターや在宅介護支援センターも設置され、万全の医療体制が整っています。

### 15. 都市計画道路（秋葉山高向線）

秋葉山高向線都市計画街路事業 753m（378m御園区間）、伊勢松阪線道路改良事業 1,145mを現在、県施行により行っています。幅員18m、片側1車線、両サイドに3.5mの歩道を設けています。この道路の目的は、国道23号線と伊勢の市街地を結ぶことにより、円滑な車輛通行と都市機能の確保を図る事が目的です。

また、国道23号ICから東方向へは、県営ふるさと農道と村道が伊勢市下野町まで伸び（今通ってきた）伊勢市中心部を迂回する環状道路となっています。

### 16. 都市計画道路

日赤神田線 370m、八日市場高向線 120mは、現在予備設計を行っている段階で、近々着手の予定となっています。八日市場高向線は、伊勢市と御園村の境界部分で道路幅が大きく違い、交通安全上、問題となっているところです。

### 17. 図書館（福祉健康センター）

平成4年に現在地に移転し、新館がオープンしました。蔵書22万冊、点字図書、大活字本、カセットブックなど多数の図書を揃えています。子供に絵本等を読み聞かせるコーナーやビデオ・レーザーディスクを鑑賞できるAVコーナー、目の不自由な方に本を朗読する対面朗読室もあります。現在の利用登録者数は約4.6万人となっています。

2階には、ふるさと創生事業の一環として設置された「ふるさと文庫」があり、伊勢地域に関する書物・資料を揃えています。

また、市内遠隔地の利用者や病院来院者の利便を図るため、分室として各コミュニティセンター・生涯学習センター・伊勢総合病院にそれぞれ1,500冊～3,000冊の蔵書を備えています。なお、開館時間は水・木・金曜日が午前9時～午後7時まで、それ以外は9時～5時までとなっており、休館日は年末年始・毎週月曜日となっています。参考までに、13年度の図書館利用状況は、入館者数300,000人、貸し出し図書315,000冊となっています。

### （福祉健康センター）

昭和 63 年に市制 80 周年記念事業の一つとして完成しました。老人福祉センター、児童福祉センター等の福祉施設や保健センターからなる保健福祉の複合施設です。

管理は社会福祉法人伊勢市社会福祉協議会が行っています。社会福祉協議会は、福祉健康センターの運営管理のほかに、在宅福祉の中核機関としてホームヘルプサービス事業等の各種福祉サービスやボランティアの育成を図っています。

なお、センター内には内科・小児科・歯科の休日応急診療所もあります。

## **18. 宮川親水公園**

平成 12 年 4 月から共用開始しています。

宮川親水公園は宮川の河川敷に瀬や淵、せせらぎなどの自然の水辺を残しながら、河川が身近な遊び場・学習室の場となるよう、また利用される方々が川に親しみ、うるおいとやすらぎを感じられる、憩いの場になることを目的に整備を行いました。

護岸は環境に配慮した工法を取り入れており、石の隙間をあけ水辺の生物が生息できるようになっています。

おばたまつりもこの親水公園で開催しています。

## **19. シルバーハウジング・グループホーム**

両方とも平成 14 年 2 月から共用開始しています。

シルバーハウジングとは、1 人暮らしの高齢者や高齢者のみ世帯の方が、地域の中で自立して安心かつ快適な生活が送れるよう、安全や利便性を配慮した町営住宅で、入居者の在宅生活を支援する生活援助員を配置しています。

施設の特長としては、火災等を防ぐため台所や風呂など従来ガスや灯油を使用していたものを全て電気で対応するオール電化の施設となっています。また、日常の生活で必ず利用する「水」の使用状態を監視し、長時間の連続使用や一定期間使用がない場合には“異常”と判断し、通報する「水センサー方式」を取り入れるなどの配慮がなされています。

グループホームとは、痴呆症状のみられる高齢者が生活援助員による生活上の指導・援助等を受けながら家庭的な環境の中で共同生活を営むことから、痴呆の進行を穏やかにし、問題行動を減少させ、精神的に安定して健康で明るい生活を送っていただくためのものです。施設の特長としては、部屋に閉じこもらないよう、廊下に談話スペースを設けたほか、多目的室を広くとり、入居者の交流の場として活用しています。また、入居者が部屋を間違えないよう、各室入り口の扉を色分けするなどの配慮がなされています。

## **(斎場)**

伊勢市・二見町・小俣町・御園村・玉城町・度会町・明和町の 7 市町村で構成する「伊勢広域環境組合」によって昭和 61 年 12 月から業務を開始しています。火葬炉 6 基、汚物炉 1 基の施設を備えています。

## **20. 総合体育館**

平成 2 年 3 月に完成しました。

アリーナは、床面積が 1,448 m<sup>2</sup>、天上高 16 メートルとなっており、バレーコートですと 3 面、バスケットコートですと 2 面、バトミントンコートですと 6 面がとれ、空調設備も備えています。

トレーニングルームには各種の機器がそろえてあり、登録を頂くと無料で利用できます。また 2 階には柔剣道場を備えています。

年に何回かは、芸術文化などのイベントも開催されています。

## **21. 大仏山公園**

平成 4 年 5 月に着工し平成 7 年の 3 月に完成しました。

多目的グラウンドは、陸上競技の 400Mトラックを取れる広さがあり、野球やサッカーなどにも利用できるようになっています。他にはキャンプ場（テント 11 張）や自転車専用のマウンテンバイクコース、展望台、散策コースなどが設置してあります。また、町民体育祭もここで開かれています。

## **22. 小俣町図書館**

平成 10 年 4 月に蔵書数 5 万 5 千冊で開館いたしました。総工費は約 19 億円となっています。県内の図書館では初の「まちづくり施設整備基準」いわゆるハートビル法に適合した建物であり、障害のある方や幼児、高齢者まで全ての方にやさしく使いやすい図書館として開館以降、順調に利用を伸ばし現在にいたっています。また、11 年度からは県内の各図書館とのインターネットを介した相互貸借サービスも行っており、町の図書館という枠を超えた、複数の図書館の連携によるサービスも行うことができるようになっています。

現在蔵書数は約 9 万冊となっており、1 日の平均、約 700 人の方に利用いただいています。登録者は現在 2 万人程度となっており、町村別の登録の割合は小俣町が 60.7%伊勢市が 19%、御園村が 2.5%、二見町が 1.2%となっています。

## **23. 明野航空学校**

## **24. 伊勢市飛地（野村町）**

伊勢市飛地の野村町があり、小学校は明野小学校が近くにあるにも関わらず、通うことができません。もし、合併する事となれば、学区が見直されることになり、こういったことが解消されることとなります。

## **25. クリーンセンター**

1 日のし尿、浄化槽汚泥処理能力は 270KL で、平成 4 年度から稼動しています。伊勢市・二見町・小俣町・御園村・玉城町・度会町の 6 市町村が構成する「伊勢広域環境組合」が運営しています。詳しい説明は担当職員が後ほど行います。

## **26. 伊勢広域環境組合清掃工場**

昭和 50 年 4 月に操業しました。7 市町村で構成する「伊勢広域環境組合」が運営しています。1 日 120 トンの焼却能力をもつ炉を 2 基備え、可燃ごみを処理しています。また、平成 7 年 2 月から 1 日 45 トンの処理能力を持つ粗大ごみ施設が稼働し、粗大ごみ及び不燃物ごみを処理しています。詳しい説明は担当職員が後ほど行います。

## **27. 国道 23 号**

村のほぼ中央を東西に貫通。6 車線化し、その沿線は、近年、商業施設の進出が著しい。

## **28. 旅館街**

昭和初期に形成された木造 3 階建ての旅館建築や、この地方特有の妻入り屋根の住宅などが残る旅館街です。現在も修学旅行や夏の海水浴客など年間 200 万人が訪れます。

平成 9 年度から観光業を営む経営者を中心に「まちづくり検討会議」を組織し、旅館街のまちづくりに取り組んでいます。町では今年度より国土交通省の補助を受け、昭和初期のイメージを大切に保存しながら、JR 二見浦駅から二見興玉神社までの道路美装化、家屋の修景整備などの街なみ環境整備事業に取り組んでいます。

## **29. 民話の駅・蘇民**

平成 9 年度から農林水産省の補助を受け山村振興等農林漁業特別対策事業にて整備してきました「二見しょうぶロマンの森」に農林水産品の直売施設として整備したものです。

建物の総工費は約 1 億 4 千万円で用地費を含めると約 4 億円の事業費です。現在の出荷者は約 140 人で、新鮮な野菜や魚が好評で 9 時にオープンし午前中に売り切れになることが多い。また、施設内には餅の加工場があり、つきたての御餅や赤飯が人気商品で四季折々のおこわの販売もしています。

平成 13 年度の売上は約 1 億 1 千万円で、そのうち販売手数料の 3,800 万円が町の収入となり、残りは出荷者の収入となっています。地産地消だけでなく老人の生きがいづくりにも一役かっています。

## **30. 二見町老人福祉センター**

二見町老人福祉センターは、昭和 61 年 3 月 20 日に竣工されました。

敷地面積 2,221.06 m<sup>2</sup>、鉄筋コンクリート造 2 階建一部鉄骨造 1,017.18 m<sup>2</sup>で、センター内には集会室、調理実習室などがあります。

老人会行事、独居老人への給食サービス、各種検診、研修会など月平均 7 回、年間約 3,000 人の方が利用されています。また、同敷地内には二見町デイサービスセンターがあり、二見町内の老人の憩いの場となっています。